水 文・水 資 源 学 会 誌
J. Japan Soc. Hydrol. and Water Resour.
Vol. 28, No.1, Jan. 2015 pp. 7 - 8

学会賞受賞記念寄稿

水文・水資源学会功績賞を受賞して

安成 哲三*

このたびは，栄誉ある水文・水資源学会功績賞をいただくことができ，大変恐縮し，同時に深く感謝している次第です．

私は水文・水資源学会では，1996年～1998年に理事を務め，2002年～2006年には副会長（理事）および国際委員を務め，2006年～2008年には会長（理事）を仰せつかりました．会長職も多くの有能な理事の方々などに助けていただいて，何とかやりおおせた状態で，学会に対し特筆すべき功績があったかどうか，はなはだ心もとなく，この度の功績賞というのは，何かの間違いではないかと未だに思っている次第です．

強いて言えば，我が国の学会が英文誌を通じて国際的に研究成果を発信することの重要性を早くから認識し，会長在任中の2007年に，水文・水資源学会の英文レター誌（電子ジャーナル）であるHydrological Research Letters（HRL）を発刊しましたが，発刊に強い熱意を持った若手会員の方々の努力を少し後押ししたことぐらいかと思います．そのHRLが現在も活発なジャーナルとして続いているということで，非常に嬉しく思っております．現在の国際化の波の中で，このHRLが，他の水文関係学会と合同で新たなジャーナルとして始まると聞き，水文学，水関係諸学会の統合に向けた動きがようやく，しかし実質的に始動したと感じ，HRLを立ち上げられてほんとによかったと感じています．改めて，当時から現在に至る編集委員会の方々のなみなみならぬご努力に対し，深い敬意の念と感謝の意を表する次第です．

もうひとつ，私にとって大変思い出深いのは，1990年代前半から推進してきた国際プロジェクト「アジアモンスーン　エネルギー・水循環研究観測計画（GAME: GEWEX Asian Monsoon Experiment）」です．この国際プロジェクトは，アジアモンスーンの解明と，この地域の水資源，大気循環，水災害等に関わるエネルギーと水循環プロセスの実態解明を目指したものですが，この計画では，日本の水文学研究者と気象学研究者が始めて共同で立案し，遂行しました．水文・水資源学会と気象学会の若手研究者の力強い連携により，GAMEは成功裏に終了し，これを機会に，水文学と気象学の連携は当たり前のことになりました．このプロジェクトを遂行したという業績により，2006年には学会より国際賞をいただくことになりましたが，これも当時の若手・中堅会員の大きな努力と協力があったからこそと思っています．

2001年に名古屋大学に異動してからは，植生（生命圏）がアジアの水文気候に及ぼす影響をも含めた研究を含め，21世紀COEプログラム「太陽－地球－生命圏相互作用系の変動学」や，グローバルCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」等を，文・理・農・工など，既存の学術分野を超えた，新たな環境智を結集するパラダイムの構築を目指してきました．実はこのような活動でも私の傍で共同研究を進めてくれる仲間には，常に広い視野を持った水文・水資源学会の研究者がいました．2013年に総合地球環境学研究所に異動して以降は，地球環境の保全と持続可能な地球社会を統合的に超学際的に進める新たな国際計画「Future Earth」の推進に微力ながら努力していますが，ここでも，水文・水資源学会に所属する活発な研究者の協力・協働が大きな役割を果たしてくれています．

このように，私の過去20数年間の研究活動は，水文・水資源学会の多くの研究者に大いに助けられて現在

* 総合地球環境学研究所・所長

に至っており，このたびの「功績賞」はこのような多くの学会員との協働により頂けたものと信じています．今回の受賞を機会に，共に仕事をしてくださった多くのすばらしい学会員に改めて感謝すると共に，水文・水資源学会の更なる発展を祈念しつつ，御礼のことばとさせていただきます．

【氏　名】安成 哲三
【所属・役職】総合地球環境学研究所・所長
【略歴・主な活動等】
1947年生まれ．京都大学理学部卒業．同大学院理学研究科修士・博士課程修了．理学博士．京都大学東南アジア研究センター助手，筑波大学地球科学系助教授，教授，名古屋大学地球水循環研究センター教授，2003年10月から2008年3月まで同大学21世紀COE「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」拠点リーダー，2009年6月から2013年3月まで同大学グローバルCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」拠点リーダー．2008年10月から2014年9月まで日本学術会議会員．2013年4月より現職．気象学，気候学，地球環境学を専門とし，2013年6月よりフューチャー・アース国際科学委員，同年8月より日本学術会議フューチャー・アースの推進に関する委員会委員長を務めている．気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書第1作業部会（自然科学的根拠）査読編集者．